



次は何に 生まれましょうか

～見つめませんか？ 自分のこと、周りのこと～



稲城市

女と男のフォーラムいなぎ2021実行委員会

目次

実行委員長あいさつ	2
稲城市長あいさつ	3
ゲスト・上映映画紹介	4
映画あらすじ	5
トークタイム	6
パネル展	12
女と男のフォーラムいなぎ2021アンケート集計結果	13
ゲストより感想	15
『稲城市婦人のつどい』から『女と男のフォーラムいなぎ』へ	16
実行委員になって一言	20
女と男のフォーラムいなぎ2021実行委員会活動経過報告	22
女と男のフォーラムいなぎ2021実行委員名簿	24

女と男のフォーラムいなぎ2021プログラム

2021年1月24日（日） 稲城市地域振興プラザにて開催

12:30 開場（地域振興プラザ4階会議室）

13:00 開会 開会あいさつ

（実行委員長・稲城市長）

13:30 映画上映『次は何に生まれましょうか』（上映時間25分）

14:00 トークタイム：野本 ^のもと ^こずえ 梢 氏（映画監督）

：稲村 ^いなむら ^くみこ 久美子氏（作品プロデューサー）

15:15 閉会

実行委員長あいさつ

井川 眞知子

皆さま、こんにちは。

本日はお忙しい中「女と男のフォーラムいなぎ2021」にお越しいただきありがとうございます。

特に今回は昨年から続いているコロナ禍が収束しないまま、それどころか感染拡大が続く中での開催となりました。

実行委員一同、新型コロナウイルス感染予防対策を考慮しながらどう開催していいのか、様々な意見を出し合い「シネマ」を選びました。

1975年の国際婦人年をきっかけに始まったこのフォーラムも数えること43回。今年のフォーラムも何とか開催したい、との思いで定員を減らし、本日本番を迎えることができ、皆様には心より感謝申し上げます。

映画は野本梢監督の『次は何に生まれましょうか』と決め、交渉の結果、野本監督とプロデューサーの稲村久美子さんにお越しいただくことができました。そして、映画のタイトルをそのままフォーラムのテーマに掲げ、サブタイトルとして「見つめませんか？自分のこと、周りのこと」としました。

生き方・価値観など、様々な多様性が広がる中で社会的にはまだまだお互いを当たり前のようには認め合える状況ではありません。



ましてや新型コロナウイルスで社会が大きく変わろうとしている今、私達は大きなストレスを抱え「生きづらさ」を感じながら日々の生活を余儀なくされています。

この機会に自分そして自分を取り巻く環境を見つめ直すことが大切なのではないでしょうか。

この映画が、そしてこのフォーラムが、そのきっかけになれば実行委員としてこれ以上の喜びはありません。

社会のしくみ、人々の意識が、大きく変わっていくことはなかなか難しいでしょうが、それでも1歩でも2歩でも前進していくことを願い、実行委員を代表し私の挨拶とさせていただきます。

稲城市長 あいさつ

高橋 勝浩

本日は、「女と男のフォーラムいなぎ2021」に御参加いただき、誠にありがとうございます。

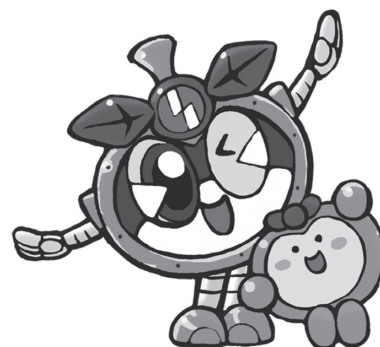
ただいま井川委員長からお話がありましたとおり、コロナ禍のなか、このフォーラムを開催するかどうか、たいへん悩まれたのではないかと思います。開催の決断に、まずは感謝と敬意を表したいと思っております。

今回、映画を観てトークをするというのは初めての形式だということで、このフォーラムにふさわしいテーマを選び、ショートフィルムを上映して、監督、プロデューサーをお呼びできたのも、実行委員会の御努力、さらにはいらしていただいた、野本監督、稲村プロデューサーにも改めて御礼を申し上げたいと思っております。

さて、このフォーラムは1975年（昭和50年）の国際婦人年を機にスタートいたしました。当時は、男女平等や女性の社会進出の取り組みは、まだまだ遅れていましたが、稲城では市民参加型で市と協働して取り組んだというのは、非常に先駆的であったわけです。それからずっと、男女共同参画、男女平等の課題について、行政主導ではなく市民による実行委員会形式でまとめてきたというのは本当に素晴らしいことです。



本日は、映画の後に皆さんで意見交換することがあると思いますが、ぜひ今日のフォーラムが新たな稲城の男女共同参画、さらには、多様性への対応やSDGs、ジェンダー平等といったものの解決のきっかけになることを祈念するとともに、本日、ご参加いただきました皆様方の今後の御発展、御健勝を祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。



©K.Okawara・Jet Inoue

稲城市



ゲスト・上映映画紹介



監督
野本 梢 氏

山形生まれ埼玉育ち。学習院大学文学部卒。

シナリオセンター、映画24区で脚本について学び、2012年よりニューシネマワークショップにて映像制作について学ぶ。

人を羨み生きてきた為、奥歯を噛み締めて生きる人たちにスポットを当てながら映画制作を続けている。

代表作品に、『私は渦の底から』（2015年制作）『わたしが発芽する日』（2016年制作）。長編映画『愛のくだらない』（2020年制作）が、第14回田辺・弁慶映画祭にてグランプリと映画.com賞をW受賞した。



プロデューサー
稲村 久美子 氏

有限会社エイジア（映画製作・リフォーム・学習教室）代表取締役。

日本心理学会所属認定心理士。25歳で起業、東日本大震災の被災地支援と復興の為に1年間石巻市へ通い、その後大学の心理学部へ。

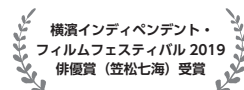
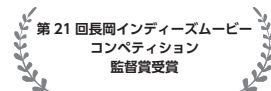
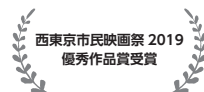
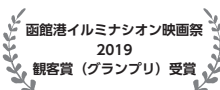
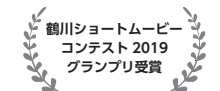
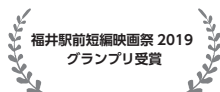
伝承による防災を課題に、東日本大震災から10年を迎える被災地で映画製作を行うプロジェクトを現在進行中。

野本監督との共同作品には、『次は何に生まれましょうか』（2019年制作）の他、『朝をこえて星をこえて』（2017年制作）『あの頃と甘いシュシュ』（2018年制作）『一緒に歩こう』（2019年制作）等がある。

上映映画

次は何に生まれましょうか

野本 梢 監督作品/2019年/日本/25分/制作エイジアムービー



あらすじ



シングルマザーの聡美は、小学生の娘望結が他の子ども達と少し違うところに苦悩しながらも、誰にも相談できずにいた。

母親に「あなたの育て方が悪い」と叱責され、担任の先生に泣きつかれ、聡美は苛立ちがつつのり、ついに望結に当たってしまう。

聡美の気持ちに気づいたママ友から相談機関があることを伝えられる。



同僚に望結のことを相談する中で、娘だけでなく聡美自身も生きづらさがあることに気づく。

親子で相談することを聡美の母親に伝えたところ、理解されるどころか叱責されてしまう…。聡美の父親のひとことで、子育てに悩んでいたのは聡美だけではなく聡美の母親も同じであったことを知ることになる。

主人公の親子を通じて、多様性を認め合える社会の実現という問題提起をした作品。

トークタイム

映画上映後、野本梢監督と稲村久美子プロデューサーを交えて映画にまつわるお話をインタビュー形式で伺いました。



思い入れのある場面について

【野本】 聡美の同僚・由紀が家に来て会話を
する場面です。ほんやりと不安に思っ
ていたところに由紀が声をかけてくれたこと
で、聡美の気持ちが大きく動く場面です。
映画では後半の場面ですが、実は初日に撮
影しました。聡美にどういう言葉をかける
べきか、どういう気持ちで向き合うのがよ
いか、由紀を演じた笠松七海さんと共に消
化できないまま撮影に入ってしまいました。
撮影の本番は、アドリブも入れながら、彼
女たちが感じたままに、心から出た気持ち
を演じたのだらうなと思いました。一番不
安なシーンでしたが、現場にいて、私も稲
村さんもすごく心が動かされた場面となり
ました。それは皆さんにも伝わったのかな
と思っていて、私も好きなシーンです。

【稲村】 小学校のシーンに思い入れがあり
ます。実際にうちの子供たちがトータルで
24年間通っていた小学校で撮影しました。
聡美役の根矢涼香さんと由紀役の笠松さん
の年齢が若いと指摘されることがありますが、
実はこの映画、10代の出産ということも
テーマに描いています。私自身も10代で
一番上の子を産んでいますが、上の子達を
育てている時には、中々上手く行かないこ
とも多く実際学校に呼び出されたり、本当
に色々ありました。このシーンを撮り終
わったあと様々な思いがあってつい号泣し
てしまいました。改めて、本当に懐かしい
なという思いで見えていました。

困難を抱えている人に注目した理由につ いて

【稲村】 野本さんが発達障害をテーマに
撮っていた作品『わたしが発芽する日』を
観た後、スペクトラムとしての発達を捉え
ることで、現れにくい困難さ、すなわちあ
のちちょっと変わっているというレベルだ
と、なかなか理解されず支援が入りにくい、
その難しさを丁寧に描きたいと思い、野本
さんにお話ししました。

【野本】 以前ご一緒した女優さんで、一見
分からないけどちょっと空気が読めない、
それが苦手で変な人と思われてしまうとい
う悩みを持っていた方がいました。その話
を伺い、映画にしてほしいと持ちかけられ

たことがきっかけで『わたしが発芽する日』を作品にしました。

稲村さんが心理士の資格をお持ちで、意見をいただきながら作品が作れるのはとても貴重ですし、『わたしが発芽する日』で向き合い切れなかった部分にご尽力いただきました。稲村さんが今までに会ってきた方々やご自身の経験に強い思いがあり、多くの方に届く作品ができるとの思いで撮影しました。

【稲村】困難に直面して大変だと感じることは、誰にでもあることだと思います。ただ、多くの方々に共感してもらえれば、それは一般的なこととなり、別におかしなことではありません。でも、共感されることが少なければ孤立してしまうので辛いと思います。だからといって、そういう特性を何でも許すのではなく、例えば「こういう言い方のほうが分かりやすいよ。」とか、「こう言った方が傷つかないよ。」といった話を周りとしながら解決していくことが大切ではないかと考えています。

【野本】今、稲村さんが言っていたこともそうですし、私自身も結構空気を読むのが苦手で「いいタイミングで何かやって」と言われても、いいタイミングって何だろう、もっと具体的に教えてほしいな、と思うことが多いです。でも、そういうことは意外と誰にでもあるのでは？ それぞれ困難を抱えて生きているのでは？ と思います。

稲村さんが言ったように、それが共感されるものか、よく知られているものかという差もありますし、抱えている方自身がそれを打ち明けられる環境にあるか、気軽に話せるかどうかで深く抱え込んでしまうかどうかにか左右されるのかなと思っています。

注目してほしい点について

【野本】娘が人と違うことで聡美は悩んでいます。そうなのは自分のせいではないかと思っています。また、実は自分にも娘と同じような特性があり、それに気づき向き合うように描きたいと思いました。

【稲村】野本さんが今話してくださったことはもちろんのこと、お母さんとの関係性です。ご覧になって気付かれた方もいると思いますが、お母さんはとても強い。聡美がすることを全否定。お母さんが聡美を育てているときに苦勞したことを想像していただければと思います。その上で、怖いお母さんと向き合えない聡美、間に入ってくれるお父さんがキーポイントになってきます。

また、子育てに悩むお母さんのモデルは、私の身の回りに意外と多いです。私自身、学習教室をやっているまして、発達障害の子、ダウン症の子たちも来ています。寺子屋のような形でやっている中で、お母さんたちのお話をたくさん聞くと、珍しいことではありません。作品をご覧になる方によって

はリアルではないと言われますが、私の中では非常にリアルなお話です。

コロナ禍で周りを見て、変わったと思われることについて

【野本】物理的にも心理的にも密に接する機会が限られていると強く感じていて、特に2020年4～5月の自粛期間は、撮影現場も全部ストップしてしまい、リモート撮影をやりました。みんなの自宅にカメラを送って撮影してもらい、オンラインでその様子を見ながら、「カメラをこの辺に置いてください。」とか、「お芝居はこうしてください。」とお願いして作品を作ることもありました。ただ、出来上がった作品を観ても伝え切れていない部分があると感じました。雑談もしづらく、直に会ってお話することの大切さを感じます。今日、皆さんがこの場に来てくださり、直接お会いできる機会が本当にありがたいです。

【稲村】温度感が違いますよね。現場では熱い感情が湧き上がってもリモートではそうはいきません。電話で相談するよりも会って表情を見ながら相談するとほっとします。

【野本】リモートだと会っている時のように空気感が伝わらないし、細かい表情が分からないので、いつも以上に声をかけなければいけないと気をつけていました。

役者さんはふだん演じることがメインで

すが、自宅での撮影は、カメラ操作や美術の用意をしなければならず、事前に伝えていても、この負担は非常に大きかったようで、お互いにフラストレーションがたまってぶつかることも多く、いつもより熱い声かけをしなければならないと思いました。声かけは過ぎて悪いことはないので、リアルな現場でもやっていきたいと、ここで学びました。

【稲村】昨年2月の県立高校の入試前日に中学校が休校との連絡が入りました。そのためメンタルが結構ぼろぼろな状態で受験した子もいます。お子さんを1人家に残して仕事に行けないというお母さんが多いので、学習教室は続けてやっています。ただ、大人が思う以上に、子供たちは割とすぐに状況に適応します。

遊びたい時は外に行って遊び、勉強するときは黙ってやればいい。どんな時も学習教室は続けていかなければならないと強く思います。

頑張ろうと思う原動力について

【野本】撮影が終わった後は、しばらく映画を撮るのをやめようと毎回思いますが、皆さんのお顔を拝見し、感想をいただくともっと届けていきたいなという気持ちになってしまいます。

撮影は大変なことが多いですが、一番時間を割くのは撮影までの準備です。普段違

う部署にいる方々が集まり、現場では一緒に仕事をしますので、撮影当日、能動的に判断して動ける環境をしっかりと準備しておかないといけません。そこで手を抜いてしまうと、不測なことがたくさん起き、対応できなくなります。

できるだけ声をかけて、この仕事はあなたに頼みたい。あなたにしかできない。あなたを頼りにしているからお願いしたいということを一人ひとりにしっかり伝えなければいけません。思っているだけではダメなのです。

【稲村】観た方に感想を言っていただけること、お会いできるところが一番です。

何日かけて撮る映画だと、最後私は泣くし野本さんが怒るし、けんかになることが多いです。現場でも然り。そのため、どんなに大変でも休憩時間をしっかりとって、おいしいものを用意することになっています。私は現場でお母さんの立場でいようと思っています。私は現場でスタッフさんたちに、「ご飯食べた？ ご飯食べようよ」と声かけをしています。そこを一番気をつけなければならないと、この映画を撮って気づきました。

【野本】稲村さんが用意してくれる食事はボリュームがあり、豪華です。みんなで食べても食べ切れないぐらいの食事を用意してくれます。いつも結構肉が多めで、エネルギーになりますが、前回は野菜の彩りが

きれいで、こんないい環境で撮影していいのだろうかと思うくらいでした。

映画業界について

【稲村】映画業界は男性社会と言われていますが、これは物理的な問題だと思っています。撮影は時間や体力が非常に必要でして、家庭を持つと両立が大変です。

例えばベビーシッターさんをお願いする、家事分担を考えるなど、誰もが仕事を続けていける方法を考えなければいけないと本当に思っています。

【野本】そうですね。自分が女性だから撮ろうと思っていることは過去に一度もありませんが、「これは女性の視点だよね」と言われると、性別で切り離されていると感じ苛立ちを覚えます。例えば、母親の悩みを他者が何も理解できないのかといったら、そんなことはないと思います。

【稲村】野本さんはおとなしく穏やかと言われていることが多いですが、実は熱く、だからこそ作品にできるのだと思っています。

プロデューサーは何でも屋です。野本さんも多分撮影の前日はあまり寝てないと思います。台本の直しも2人でぎりぎりまでやりますが、自分が作りたいと思うものが作品になる喜びが何物にも代えがたい。今はSNSなど表現する場がたくさんありますが、流動的なものではなく、「残せるもの。

形になるもの」を作るのは非常に面白いです。

【野本】現場には様々な方が携わり、チームプレーで「作品を作り上げること」がとても面白いです。脚本を練る段階でも、私が持っていない視点を稲村さんが持っていたり、各人が大事にしている部分でもめますが、それはみんながいい作品を残したくてやっていることなので、作品が高められていくのがすごく面白いなと思っています。

今後取り組みたいことについて

【野本】進行中の企画が幾つかあり、1つは、子育て、子供とうまく向き合えない家庭を描いた長編映画です。あとは、友人から相談されている不妊治療の話を来年か再来年に取りかかっていたいと思っています。

【稲村】東日本大震災から10年になります。地震の数日後に弟と旦那と一緒に被災地に行きました。復興支援をその後も続けてきた中で、被災地の復興については絶対に映画を撮っていこうと思っています。この地で昔こういうことがあったと伝えることは私たちの役目だと考えています。

質疑応答

【参加者1】昨年の緊急事態宣言後から、DVの増加や児童虐待の問題、自殺者が女性や子供の間で増えていることがニュース

になっていますが、今回の映画のテーマとは別の生きづらさを抱えている人たちが身の回りにもたくさんいると思っています。その辺りのことについても、お二人のお考え、ご意見などがあればお伺いしたいです。

【稲村】今とても虐待等が増えていると認識しています。子供たちからドキッとするような相談をされることもあります。命は本当に大事です。誰しも悩みながら今の状況を過ごしています。学校に行けないことでお互いに行き詰まってしまうことが多いな…と。家にずっといることは、人間にストレス、負荷をかけますが、すぐにどうすることもできないので、この先どうしていくかをもっと考えていかなければならないですね。相談できる場がもっと増えてほしいなと思います。

【野本】私自身も塾講師として教育に携わっていますが、休塾期間があるとそこから復帰できなくなる子がいます。例えば、父親がリモート勤務で家にいると、その子の居場所がなくなり、塾にも学校にも行けず部屋に籠もりがちになります。会って話せば解決できることも、コロナ禍では会えず、伝えることもできなくなります。他者と切り離される状況はとても危うい状況で、とても歯がゆいと感じています。

【参加者2】社会的なメッセージを込めた作品というのは、それだけですごく意味のあるものだとは私は思っています。今日、25

分間の映画を観て、周囲の理解、協力がとても大事だということが描かれていると思いました。この作品のタイトルは、なぜ『次は何に生まれましょうか』なのでしょう。発達障害、学習障害を、野本監督が一番初めに「特性」とおっしゃっていたのを聞いて、すばらしいなと思いました。受け入れて生きていく、周りが支えていく、理解していくのが大切だと思っているので、「次は何に生まれる」という未来のことよりも、とにかく今をどうやって生きていくの方が大事だと思っているので、監督とプロデューサーはどうしてこういうタイトルをつけられたのか、どういうお考えがあるのかをお聞かせください。

【野本】私は星野源さんが好きで、彼の曲名からヒントを得ました。今回描いた家族の生きづらさは遺伝性のあるもので、聡美のお母さんも聡美自身もその娘も、自分とは切り離せない。では、次の人生、生まれ変わるなら、どのようにどう生きたいかを考えるきっかけになるタイトルにしたいと感じて、私はつけました。稲村さんは？

【稲村】私は野本さんに、タイトルはお任せしますとお話ししています。分かりづらい困難さは、本当に障害と言っているのか。

『次は何に生まれましょうか』というのは、生まれ変わりたいという意味ではなく、今の自分に生まれたいと思えるかどうか、今が幸せと思えるかどうかではないかと思

います。

生まれ変わっても、また人に生まれたいと思えるような状況が作ればいいなという思いを込めて、このタイトルを野本さんから聞いた時にOKを出しています。

最後に

【野本】本来なら、皆さんの個々のお考えやご経験を伺って意見交換したいところです。私や稲村さんの言葉が正解ではないので、映画を観た中でご自身が感じたことや経験を大事にさせていただきたいと思います。本日はこのような機会をいただき、ありがとうございました。（拍手）

【稲村】今日は、映画を作っていて良かったなと思える1日でした。野本さんがおっしゃったように、誰が正しいのか分かりません。立場が変われば答えも変わります。分からないからこそ、こういう会が非常に有意義だと感じます。皆さんと予定していたグループワークができず残念ですが、今日はお招きいただき本当にありがとうございました。（拍手）

パネル展

フォーラム開催に先がけ市役所1階ロビーでは資料展示、市内各図書館ではイベント及び関連図書のPRコーナーを設置しました。

市役所1階ロビー

期間：令和3年1月12日（火）～1月22日（金）



番外編

実行委員の気になった映画

実行委員会の会議の中で、たくさんの映画を観て情報交換をしました。一部をご紹介します。



『アルム』

監督・脚本・編集 野本 梢
2020年 日本 中央大学学会制作
大学生の友佳は忙しい毎日を送っていた。そんなとき大学で清掃の仕事をしている青年・尾田と出会い、授業に興味を持つ尾田をもぐりこませようと画策するが、とある事実を知ってしまう。人生の岐路にたたされた大学生の葛藤をハラスメントの問題を交えて描いています。

『私は渦の底から』

脚本・監督 野本 梢
2015年 日本 ニューシネマワーク ショップ制作
主人公の希子は自分がレズビアンであることに悲観になり、親友への想いを断ち切ろうと決意した。しかしとある真実を突き付けられ…
東京国際レズビアン&ゲイ映画祭 グランプリ受賞作品です。

『ミッドナйтスワン』

脚本・監督 内田 英治
2020年 日本 CULEN制作
トランスジェンダーとして心身の葛藤を抱えながらニューハーフパブで働く主人公が、母親の愛情を受けられずに捨てられた少女と出会い、徐々に母性に目覚めていく切ないラブストーリー。社会から理解されないトランスジェンダーへの差別や偏見に一石を投じた作品です。

『火垂るの墓』

脚本・監督 高畑 勲
1988年 日本 スタジオジブリ制作
戦争映画の代名詞の『火垂るの墓』。しかし、周りとの関わりを断ち2人だけで生きようとしたり、将来が不安で貯金があるのに妹を栄養失調にさせてしまったり現代にも通ずる生きにくさが垣間見えます。

『言の葉の庭』

脚本・監督 新海 誠
2013年 日本 新海クリエイティブ制作
新海誠監督のショート映画。他人から見たら羨むような容姿や特技を持っていたり、どの登場人物も不機嫌で幸せそうに見えません。自分にとって幸せって何だろうと見つめなおしてみたくなる作品です。

『生理ちゃん』

監督 品田 俊介
2019年 日本 吉本興業制作／フジテレビジョン
月に一度、女性に訪れる厄介なモノ、生理…この生理により引き起こされる様々な現象がブサカワなキャラクターで「見える化」されています。生理について、オープンな話をするきっかけになる作品です。

『his』

監督 今泉 力哉
2020年 日本 ダブ・メーテレ制作
主人公の同性カップルが感じる生きづらさだけでなく、シングルマザーが抱える問題、親権を争う法廷シーン、高齢化する過疎地など、私たちが生きている社会の現実が胸に迫ります。新しい家族のあり方を感じさせるラストシーンは、機会があれば、ぜひ映画館の大きなスクリーンで観てほしい作品です。

『カラコエの花』

脚本・監督・編集 中川 駿
2016年 日本 中川組制作
ある日あるクラスだけ唐突に始まったLGBTについての授業。思春期の高校生たちは、疑念を持ち始め、波紋が広がっていきます。当事者だけではなく、周囲の人物の視点も描かれ、観終わったあと、自分ならどうするだろうと考えさせられる作品です。

*** 女と男のフォーラムいなぎ2021アンケート集計結果 ***

1. このフォーラムを何でお知りになりましたか？ (複数回答あり)

①	広報いなぎ	10	⑥	ツイッターやフェイスブックなど	0
②	チラシ・ポスター	4	⑦	市役所1階ロビー	0
③	ホームページ	0	⑧	その他 (毎年参加しているため)	1
④	友人から	2	⑨	無回答	0
⑤	メールサービス	0			

2. 映画上映はいかがでしたか？その答えを選んだ理由も、よろしければご記入ください。

①大変よい	②よい	③普通	④悪い	⑤大変悪い	⑥無回答
5	9	1	0	0	1

①大変よい

理由 (自由記載より抜粋)

- ・大変、素晴らしい映画でした。色々と何かに追われていて苦労しながら闘っていると感じました。
- ・短い作品の中にしっかり問題提起がされていて、解決につながりそうな予感を感じさせられるところ。
- ・コロナ禍の時代「〇〇警察」のように枠にはまらないものを排除する風潮も強まる中、発達障害の受認と周囲の関わりを短編ながら丁寧に描いたこの作品は、多様性について多くの人が様々な視点から考える機会を与えてくれる良い題材だと思いました。
- ・心が動かされる映画で今日参加できて良かったです。ありがとうございました。

②よい

理由 (自由記載より抜粋)

- ・内容について深めてほしかった。シングルマザーや子育てについてなど映画のテーマや感想について参加者や製作者からの言葉がもっとほしかった。(わりと裏話撮影の話が多かったので…)
- ・映像としてはとても素敵な作品だと思いました。ただエンドロールは改良の余地があると思いました。映像作家としてはとても大事な一部だと思っていますので、見にくかったです。ラストの砂場の穴掘りのシーンは良かったです。作品の(制作)意図や脚本に関しては「うーん」と思うことが多い作品でした。啓発ビデオなのか研修用のビデオかと思ってしまいました。短い作品の中にたくさんのテーマが盛り込まれていて、見る人がいろいろ感じるものでした。
- ・短編映画を観る機会が少ないため。情報が凝縮されていると感じた。
- ・今回のフォーラムのサブタイトルである自分を見つめ合う機会に恵まれる良い作品でした。障害、若者の育児、母子家庭と様々なテーマが散りばめられ、お2人の制作者の意図などを伺う事で奥行きを感じました。
- ・考えさせられる映画だった。『次は何に生まれましょうか』の回答が有ってよかった。
- ・親子関係・人の多様性について考えるきっかけになる良い教材の映画だと思いました。
- ・社会的なメッセージがある作品というのはそれだけで意味、意義のあるものだと思います。しかし、それ(メッセージ)を理解して、自分の中で整理していくことは時間がかかります。今日の時間で私が評価できるのは「よい」のレベルまででした。
- ・まさに自分のこと周りのことを考えるきっかけになりました。

3. 今後、男女共同参画と関連して、どのようなテーマの話が聞きたいですか？ (複数回答あり)

①	労働	8	⑥	老後	8
②	子育て	8	⑦	暴力(虐待・DVなど)	5
③	介護	9	⑧	災害・防災	3
④	教育	5	⑨	その他	3
⑤	家族	8	⑩	無回答	1

(⑨その他3 ・日本(稲城市)の未来 ・LGBT ・女性の生き方、生活力、経済力のつけ方)

4. 今後、どのような人の話が聞きたいですか？

- ・家事や子育てのシェアや役割分担をお互いにどのように納得してすすめているのか事例を話してくれる方。
- ・LGBTで困難をのりこえ幸福を掴み元気をくれる方。
- ・歴史の話、文化の話、ジェンダーギャップの話などなど。
- ・家族関係、夫婦関係、引きこもり、障害、貧困等のテーマについての話。
- ・最相（さいしょう）葉月（小説家）。
- ・ヤマザキマリさん、海野なつみさん、西炯（けい）子さん、『BREAK THE BORDER』の作者、荻上チキさん、ジェーン・スーさん、『タッチ』のたっちゃんの声の人、ブレイディみかこさん、橋ジュンさん、SHELLYさん。
- ・具体的な人名はないのですが、映像、小説、マンガ等の作者やプロデューサーの方のお話を今回のように伺うことは、クリエイター側の熱意も伝わり、深く考える機会となる上、幅広い層の参加者が得られてよいと思いました。

5. 今年のフォーラムの参加についておたずねします。

◆今回の参加は何回目ですか？

初めて	2回目	3回目	4回目以上	無回答
7	2	2	4	1

6. トークタイムに参加した方は感想をお聞かせください。（自由記載より抜粋）

- ・稲村プロデューサーがおっしゃった支援が入りにくいスペクトラムを描きたかったという発言が印象的でした。ぜひ次の作品も期待しています。トークを進行された司会の方大変だったと思います。ありがとうございました。
- ・とても良かったです。稲村さんの苦労話もすごく印象になりましたし、解りやすかった。
- ・撮影の裏側の話を聞けて良かった。
- ・制作時の葛藤などの裏話まで楽しく聴かせていただきました。東日本大震災、不妊治療、次回作も楽しみにしています。
- ・申し訳ないけれど、長くてダレた印象を受けました。
- ・「映画撮影」についての影のお話、努力など理解できました。
- ・言葉が悪いです、思っていたものと違いました。映画の撮影苦労やエピソードよりもフォーラムと銘を打っているのだから、もっと作品のメッセージに触れたトークを聞きたかったです。
- ・この映画タイトルにこめた思いを聞けて良かったです。

7. 今日の感想やこのフォーラムへの要望などをお聞かせください。（自由記載より抜粋）

- ・実行委員会形式でこのようなフォーラムがずっと続けてこられていること素晴らしいと思います。これからも市民の目線でぜひ企画を続けていってください。
- ・口述筆記の方々が要約していただけるのでより内容がわかりやすかったです。
- ・今回初めて参加させていただきました。自分も障がい者で掃除がすごく苦手で感情がコントロールできなくて、何か気に入らないと怒りが大きくなったり、物にあたったりしてしまいます。今、自立支援をしてもらっていますが、自分のことや周りのことを見つめなおしたいと思います。
- ・今まで鑑賞する機会のない分野の作品を観ることができる良い機会になりました。考える場をありがとうございました。
- ・フロアとのトークがもう少し有っても良いかなとも思えました。コロナの大変な最中、大変お疲れさまでした。
- ・開催に向けて、いろいろな準備をお疲れさまでした。毎年良くなっていて素晴らしいと思います。
- ・建設的な議論っていうのは難しいと思います。だからフォーラムとして様々な人々を集めて意見を集めるというのは大切なことだと思います。今後私が参加するかは分かりませんが、本気で社会を良くしたいと思っている人々が集まると良いなと思います。
- ・今回の映画タイトル、フォーラムのテーマ『次は何に生まれましょうか』と内容が結び付かず、今一つピンとこなかった。

- ・コロナ禍の中で映画上映とトークという形式にも工夫がされていて、素晴らしい取り組みであったと思います。トークで野本監督が「様々な人が関わることで想定していたもの以上の作品を生み出すことができることがおもしろい」と語っておられたことが印象に残りました。
- ・「みつめませんか？自分のこと、周りのこと」みつめすぎると迷路に入ってしまう、ねむれなくなったり、ウツになってしまう、人とかかわるのがこわくなってしまう。

8. 実行委員会のお知らせ郵送希望者 1人

9. フォーラム記録集希望者 6人

10. あなたのことにについて教えてください。

アンケート回答者

(市内参加14人、市外2人 府中市、未回答1人)

10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答	合計
0	1	1	4	3	3	3	1	16

ゲストより感想

野本 梢氏

この度はこのような歴史あるフォーラムにてお話しさせていただきありがとうございました。

私は専門家でもなんでもないので、作品を作るに至った、また完成後の個人的な思いしか伝えられませんが、皆さんが真摯に受け止めて聞いてくださり、私自身にとって、次に進む大切な時間となりました。

実行委員の皆様のホスピタリティにも感動し、自身も真似していきたくて思いました。

ありがとうございました。

稲村 久美子氏

沢山の方に、ご感想を頂けてとても嬉しいです。私にとっても、大変有意義な時間を皆様と過ごさせて頂きました。

改めてお礼を言わせて頂きたいです。ありがとうございました。又、開催にあたりご尽力下さった実行委員の皆様本当にお疲れ様でした。

アンケートにもあった通り、一つだけ残念なのは、参加して下さった方と十分な意見交換が出来なかった点です。(勿論この状況下なので)

稲城市の皆様と、又お会いして、沢山お話し出来る機会があればと心から思っております。このご縁を今後もぜひ、つないで頂ければ幸いです。

『稲城市婦人のつどい』から『女と男のフォーラムいなぎ』へ

このフォーラムは、1975年（昭和50年）の国際婦人年を記念して、「子どもに残すよい社会」をテーマに『稲城市婦わりながら、様々な形式で様々なテーマを取り上げ、現在の『女と男のフォーラムいなぎ』へと続いてきています。

この間変わらないのは、市民の実行委員会により企画・運営されていることです。フォーラムのこれまでを稲城や国、

回数	日程	名称	テーマ（講師や出演者）
1	S51.3.18	国際婦人年記念稲城市婦人のつどい	「子どもに残すよい社会」 (吉武輝子氏)
2	S53.3.31	稲城市婦人のつどい	「稲城の婦人活動のあゆみをさぐる」 (市川房枝氏)
3	S55.3.28	稲城の婦人のつどい	「稲城の婦人の地位向上とつながりを求めて」
4	S56.3.15	稲城の婦人のつどい	「あらゆる分野への男女共同参加の時代」 (山口みつ子氏他)
5	S57.4.25	82稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」 (山口みつ子氏)
6	S58.5.8	83稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」 パートⅡ (折井美耶子氏他)
7	S59.4.22	84稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」 パートⅢ (山口みつ子氏他)
8	S60.4.14	85稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」 パートⅣ (吉武輝子氏他)
9	S61.6.1	86いなぎの女性フォーラム	「ともに生きる婦人の連帯を」 パートⅤ (西村絢子氏他)
10	S62.5.10	87いなぎの女性フォーラム	「ともに生きる婦人の連帯を」 女と男でつくる21世紀 (山口みつ子氏他)
11	H1.2.18	88稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」 (丸木政臣氏他)
12	H2.1.28	89稲城の婦人のつどい	「ともに生きる婦人の連帯を」 (佐藤昌一郎氏他)
13	H3.1.26	90いなぎの女性のつどい	「21世紀・男女共生をめざそう」 (駒野陽子氏他)
14	H4.1.25	92いなぎの女性のつどい	「女と男でつくるいなぎ」 (藤田綾子氏他)
15	H5.1.31	93いなぎ女性フォーラム	「女と男 人間らしくあなたらしく」 (落合恵子氏)
16	H6.1.30	94いなぎ女性フォーラム	「女と男 人間らしくあなたらしくⅡ」 (小沢遼子氏)
17	H7.1.22	95いなぎ女性フォーラム	「女と男 人間らしくあなたらしくⅢ」 (木元教子氏)
18	H8.2.28	96いなぎ女性フォーラム	「女の生き方男の生き方 変わったことと変わらないこと」 (山口みつ子氏・半田たつ子氏・広岡守穂氏)
19	H9.2.24	97いなぎ女性フォーラム	「メディアの中の女性像・男性像」 (樋口恵子氏・岩崎貞明氏)
20	H10.3.1	98いなぎ女性フォーラム	「女と男・今“働く”ということ」 (中島通子氏)
21	H11.2.28	99いなぎ女性フォーラム	「聞いて、聞かせて、あなたの本音～家庭で・職場で・地域の中で～」 (江原由美子氏)

人のつどい』として開かれました。その後、名称は、『いなぎの女性のつどい』、『いなぎ女性フォーラム』など変

国際的な動きと共に紹介します。

稲城の動き	日本の動き	国際的（国連などの）な動き
	(昭和21年 婦人参政権獲得)	(各国で婦人参政権の獲得) 国際婦人年世界会議（メキシコシティ） (1975年昭和50年)
		国連第34回総会「女子差別撤廃条約」採択 (1979年昭和54年)
世界女性会議（コペンハーゲン）1名参加		世界女性会議（コペンハーゲン）
市民組織「稲城市婦人関係懇談会」設置	「男女雇用機会均等法」の公布 「女子差別撤廃条約」批准	世界女性会議（ナイロビ） （バックラッシュ発生 アメリカ）
稲城市婦人行動計画策定に向けての提言 （女性センター設置を提言）		
「稲城市女性行動計画（第1次）」策定		
市民組織「稲城市女性行動計画推進協議会」設置	「育児休業法」の公布	
	「短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律」（以下、パートタイム労働法）の公布	女性に対する暴力撤廃宣言
世界女性会議（北京）3名参加 市議会議員に女性5名選出	「育児休業法」を「育児休業・介護休業法」への改正（介護休業制度の法制化）	世界女性会議（北京）
「稲城市女性行動計画（第2次）」策定		
	「男女共同参画社会基本法」公布、施行	

回数	日 程	名 称	テーマ（講師や出演者）
22	H12.3.5	女と男のフォーラムいなぎ2000	「転機を生かす・転機を創る～パートナーシップが変わるとき～」 (福沢恵子氏)
23	H13.2.25	女と男のフォーラムいなぎ2001	「私にだけまかせないで～仕事・子育て・老後～」 (井上孝代氏)
24	H14.2.24	女と男のフォーラムいなぎ2002	「私にだけまかせないでパートⅡ～性域なき構造改革！ 女も男も・仕事も・家庭も～」(大日向雅美氏)
25	H15.3.2	女と男のフォーラムいなぎ2003	「はじめの一步は私から～家庭へ、そして社会へ～」 (汐見稔幸氏)
26	H16.3.7	女と男のフォーラムいなぎ2004	「女らしさ・男らしさ・自分らしさとは？～多様な生き方を認めよう～」 (瀬地山 角氏)
27	H17.3.5	女と男のフォーラムいなぎ2005	「がまんしないで・させないで～気づいてますか？身の回りの暴力～」 (江原由美子氏)
28	H18.3.4	女と男のフォーラムいなぎ2006	「気にしてますか？勝つこと負けること～私らしさの見つけ方～」 (香山リカ氏)
29	H19.2.24	女と男のフォーラムいなぎ2007	「変える勇気 変わる勇気」 (辛 淑玉氏)
30	H20.2.23	女と男のフォーラムいなぎ2008	「女と男、どっちが辛い？」 (諸橋泰樹氏・杉井静子氏)
31	H21.2.28	女と男のフォーラムいなぎ2009	「女と男、いま、『働く』ということ。～自己責任じゃ解決できない！ 聞いて、語って、何とかしなきゃ！」(竹信三恵子氏)
32	H22.2.28	女と男のフォーラムいなぎ2010	「助け合って乗りきろう！あなたの生きづらさは何ですか？ ～講談で聞く男女共同参画 A・B・C～」(宝井琴桜氏)
33	H23.2.27	女と男のフォーラムいなぎ2011	「“イクメン”はどこに向かうのか？～ブームで終わらせないために～」 (渥美由喜氏)
34	H24.2.26	女と男のフォーラムいなぎ2012	「女子力？男子力？人間力！～あなたの中に、あるちから～」 (中垣陽子氏・諸橋泰樹氏)
35	H25.2.23	女と男のフォーラムいなぎ2013	「私は私～みんなで考えよう、幸せのかたち～」 (山田昌弘氏)
36	H26.3.2	女と男のフォーラムいなぎ2014	「何のために働くの？誰のために働くの？」 (深澤真紀氏)
37	H27.3.1	女と男のフォーラムいなぎ2015	「気づいて築く 私の中にあるチカラ」 (斎藤美奈子氏)
38	H28.2.28	女と男のフォーラムいなぎ2016	「『らしさ』にとらわれていませんか 男性学の視点から日常の『あたり前』 を見つめ直す」 (田中俊之氏)
39	H29.2.12	女と男のフォーラムいなぎ2017	「備えあれば憂いなし？！～女性の視点から考える災害対策～」 (竹信三恵子氏他)
40	H30.2.3	女と男のフォーラムいなぎ2018	「気にする？気になる？気にならない？～15秒の世界が伝えるジェンダー像～」 (千田有紀氏)
41	H31.2.16	女と男のフォーラムいなぎ2019	「みんな違ってみんなイイ！！女と男だけじゃないフォーラム」 (室伏きみ子氏)
42	R2.2.1	女と男のフォーラムいなぎ2020	「絵本今昔ものがたり ～「らしさ」の描かれ方～」 (東條知美氏)
43	R3.1.24	女と男のフォーラムいなぎ2021	シネマ&トーク 「次は何に生まれましょうか ～見つめませんか？自分のこ と、周りのこと～」(野本梢氏・稲村久美子氏)

稲城の動き	日本の動き	国際的（国連などの）な動き
	「男女共同参画基本計画」閣議決定	国連特別総会「女性2000年会議」（ニューヨーク）
「女性の悩み相談」開始	「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」施行	
	「少子化社会対策基本法」公布、施行	
稲城市男女平等推進センター開設	「女性の再チャレンジ支援プラン」策定	
第二次稲城市女性行動計画達成率94.3% 「稲城市男女共同参画計画（第3次）」策定		
	「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」及び「仕事と生活の調和推進のための行動指針」策定	
		国際女性デー100周年（H22.3.8）
男女共同参画に関する実態調査の実施	「女性活躍加速のための重点方針2015」策定（以降、毎年策定） 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」公布（翌年、全面施行）	
いなぎプラン（稲城市男女共同参画計画）（第四次）策定（H28.3月）	G7伊勢・志摩サミット「女性の能力開花のためのG7行動指針」及び「女性の理系キャリア促進のためのイニシアティブ（VINDS）」に合意	
	刑法改正（強姦罪の構成要件及び法定刑の見直し等）	
	「政治的分野における男女共同参画の推進に関する法律」公布、施行 「セクシュアル・ハラスメント対策の強化について～メディア・行政間での事案発生を受けての緊急対策～」の策定	
	女性活躍推進法改正	

実行委員になって一言

★井川 眞知子

今年のフォーラムはコロナ禍の中まず、「開催できるか。できないか?!」の議論からスタートしました。

万全の新型コロナウイルス対策をしながら、どうすれば市民の皆様に安心して参加してもらえるか、委員一同知恵を出し合い、当日を迎え無事に大成功で終えることができました。

委員の皆様はもちろん事務局の皆さんのおかげです。

参加してくださった市民の方にはもちろん全てに感謝のフォーラムとなりました。ワクチン接種が始まったとは言え、まだまだコロナウイルスとの戦いは続くでしょうが、更に多くの市民を巻き込みながら、来年も再来年もずっとこのフォーラムが続いていくよう祈るばかりです。

★安重 千夏子

2020年世界経済フォーラムで、ジェンダー不平等を分析した世界ジェンダー・ギャップ指数が発表され、愕然としました。日本は第121位、先進国の中でも圧倒的な最下位です。

この状況を改善し生きやすい社会にするためには、一人ひとりの心がけ、周りの人の寄り添いが必要だと思います。

今回は、映画監督の野本梢さん、プロデューサーの稲村久美子さんをお迎えして、気づかないかもしれない、気づかれないかもしれない…そういう悩みを抱えている方々にスポットを当てた映画『次は何に生まれましょうか』を上映し、トークをしていただきました。

身近なところに隠れている小さな問題を埋もれさせないで自分の問題として取り上げていけたら、もっと優しい社会を作ることに繋がり、やがてはジェンダー・ギャップもなくなっていくかもしれません。そんな思いでこれからも女と男のフォーラムが発展していくことを願っています。コロナ禍の中、ご来場いただき心から感謝申し上げます。

★棚原 佳代

今年はコロナ禍ということもありフォーラムの開催自体が危ぶまれましたが、長いフォーラムの歴史の中でも初の試みとなる「シネマ形式」で開催することができました。感染予防対策により、フォーラムの醍醐味であるグループトークの場を持つことができず、講師の方と参加者の方を繋ぐことが十分に出来なかったことが心残りです。

人との繋がりを直接持つことが難しい状況が続いていますが、参加者の皆様やこの記録集を手にとっていただける皆様にとって、こうしたテーマに触れたことにより、孤立を防ぎ、一人でも多くの人に理解や支援のきっかけが作られることを願っております。

★田村 伸一

委員の皆様と性別役割分担、差別、L G B T等各種テーマを検討し、今回の複合テーマの映画と製作者との懇談という企画になりました。現役時代には考えもしなかった課題に刺激を受けました。

軽度の障害、障害とは気づかない障害。それに対する本人のジレンマ、周囲の無理解。近年、検査技術が高性能になり軽度の障害者が急増しています。私自身も障害者を育てて35年、シングルファザーになって30年。育てるだけでも超大変！至難の業！周囲の理解が無ければ、更に辛い。その上、心ない人からの差別発言、侮蔑的な言葉。鉄の心臓の私でも傷付き、悲しくなる。でも我が子は、それに耐えて人生をまっとうしなければならない。そういう強い子に育てなければ。と思い育ててきました。そんな事を思い出させてくれた、映画でした。皆さんは何を感じましたか？

本会の今後のご発展をお祈りしております。

★坪内 美幸

コロナ禍で生活が変化する中、変わらず実施して欲しいイベントの1つがこのフォーラムでした。

私が気軽に参加出来る学びの場であり、新しい発見を提供出来る嬉しさを感じられるからです。

コロナ禍の中どうすれば開催できるか。来場者の期待に応えるためには。私たちのメッセージを伝える為には。アイデアを出し合う時間はとても有意義でした。

今回のテーマ「自分や周りを見つめる」をしながら、生きづらさを減らすヒントを得た気がします。

このような機会を与えてくれたメンバー、市の職員の皆さま、関係者の皆さまに感謝致します。

★若山 順子

100年周期のパンデミックに巻き込まれ、迷いながらも、こういうときだからこそフォーラムを開催したいという思いを強く抱きました。緊急事態宣言下、閉ざされた空間で生きづらさを抱えた人々が希望を見出すことができるよう、社会全体の意識改革がまだまだ必要です。

あれもできない、これもできないではなく、こうすればできるというアイデアを出し合う過程も貴重な経験になりました。

参加を諦めた方々も含め、参加者の皆さん、講師のお二人、市民協働課の皆さんに心から感謝いたします。

◆女と男のフォーラムいなぎ2021実行委員会活動経過報告◆

月/日	項 目	内 容
広報いなぎ5月15日号で実行委員公募		
7/11 (土)	第1回実行委員会	・ 自己紹介 ・ 役員選出 ・ フォーラムとは（目的や実行委員会の役割など） ・ 本番候補日、会議の日程決定 意見・情報交換
8/29 (土)	第2回実行委員会	・ テーマ、形式、新型コロナウイルス感染症対策について意見交換
9/12 (土)	第3回実行委員会	・ テーマ形式（シネマ&トーク）に決定 ・ 映画候補決定
9/27 (日)	第4回実行委員会	・ 上映映画、講師、メインタイトル決定 ・ ポスターの詳細決定
10/17 (土)	第5回実行委員会	・ サブタイトル決定 ・ ゲストとの打ち合わせ内容の確認 ・ トークタイムについて意見交換
11/21 (土)	第6回実行委員会	・ ポスターの最終確認 ・ トークタイムの新型コロナウイルス対策について確認 (12/8 (火) ゲストとリモート打ち合わせ)
12/12 (土)	第7回実行委員会	・ ゲストとリモート打ち合わせの報告 ・ ポスター完成、配架 ・ 当日の役割分担、パネル展について ・ トークタイムについて意見交換
1/9 (土)	第8回実行委員会	・ 全体の流れ（トークタイム）の確認
1/23 (土)	第9回実行委員会	・ 台本について確認 ・ 当日の流れ最終確認
1/24 (日)	当 日	・ フォーラム実施
2/6 (土)	第10回実行委員会	・ 反省会 ・ 記録集編集について
2/6～	記録集作成	



打ち合わせの様子



第43回 女と男のフォーラムいなぎ 2021

参加費無料
託児あり

次は何に 生まれましょうか

～見つめませんか？ 自分のこと、周りのこと～



福井駅前短編映画祭 2019
グランプリ受賞

鶴川ショートムービー
コンテスト 2019
グランプリ受賞

函館港イルミネーション映画祭
2019
観客賞 (グランプリ) 受賞

西東京市民映画祭 2019
優秀作品賞受賞

第21回長岡インディーズムービー
コンペティション
監督賞受賞

横浜インディペンデント・
フィルムフェスティバル 2019
俳優賞 (笠松七海) 受賞

2021年
1月24日(日)

13時00分～15時30分
(開場12時30分)

稲城市地域振興プラザ

4階会議室
(稲城市東長沼 2112-1)



野本梢 監督作品 / 2019年 / 日本 / 25分 / 製作 エイジアムービー

日々、頑張り過ぎていませんか？
情報が溢れかえり、新型コロナウイルスで社会が大きく変わろうとしている
時代に置かれている私たち。
この機会に、自分を、そして自分を取り巻く環境を見つめ直すキッカケを作っ
てみませんか。

シネマ&トーク

映画上映 25分
上映後 トークタイム

(定員30名・申込先着順)

当日は予約の方を優先してご案内しますので、予めご了承ください。

監督
映像作家
野本 梢さん



ゲスト



作品プロデューサー
日本心理学会認定心理士
有限会社エイジア
代表取締役
稲村 久美子さん

※下記に該当の方は1月13日(水)までにお申し込みください。

- ① 要約筆記・手話通訳を希望される方
- ② 託児(1歳以上未就学児・定員5名)を希望される方

※点字プログラムをご用意しております。

※新型コロナウイルス感染拡大状況により時間と内容に変更がある場合があります。

【申込み・問い合わせ】

稲城市 市民部 市民協働課 男女平等参画係

■電話：042-378-2111 (内線 273)

■ファクス：042-378-5677

■メール：shiminkyoudou@city.inagi.lg.jp

■主催：稲城市 ■企画運営：女と男のフォーラムいなぎ 2021 実行委員会



女と男のフォーラムいなぎ2021実行委員名簿



実行委員

実行委員長	井川 眞知子	
副実行委員長	田村 伸一	坪内 美幸
会計	安重 千夏子	
監査	若山 順子	
実行委員	棚原 佳代	

協力

保育担当	保育士 2名
要約筆者	東京手話通訳等派遣センターから4名派遣

女と男のフォーラムいなぎ2021記録集

令和3年3月発行

編集発行 女と男のフォーラムいなぎ2021実行委員会

稲城市市民部市民協働課男女平等参画係

東京都稲城市東長沼2111

電話 042-378-2111

